

| ディプロマ・ポリシー | | | カリキュラム・ポリシー | アドミッション・ポリシー |
|---|-----|---|--|---|
| <p>本学科では、本学の定める修業年限以上在学し、共通教育科目・基礎教育科目および専門教育科目を所定の履修方法に従って124単位以上を修得し、次のような能力・資質を備えた者に対し、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定します。卒業が認定された者には、学士（音楽）の学位を授与します。</p> | | | <p>本学科では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、次のような音楽家養成の方針に基づき、カリキュラムを編成します。</p> <p>知性と豊かな個性を兼ね備えた社会に有為な音楽家の育成を目指すため、専門実技関連科目を軸に科目を設定します。基礎教育科目では、音楽分野はもとより社会全般で求められる基礎的な英語力と情報スキルの習得を目標とします。併せて西洋音楽の研究において不可欠な外国語の履修を必須とします。専門教育科目では、主専実技の演奏能力の向上を図るとともに、アンサンブルや音楽指導に必要な合唱・合奏・音楽史を含む多種の音楽理論や副専実技などを体系的・段階的に設定します。</p> <p>講義や演習科目の予習・復習をはじめ、実技科目では演奏技能向上に向けた自主練習を行うよう、また、日頃から演奏会の鑑賞等によって常に音楽に触れるよう指導します。評価については科目によって異なりますが、学期末試験および授業中の小テスト・レポートその他も含めた総合評価を取り入れ、特に実技においては複数の教員の総合評価の平均を評価点として公正を期します。</p> <p>1年次… 主専実技の基本技術を伸ばし、音楽を学ぶ上で基礎となるソルフェージュや和声法・音楽史・合唱などの導入教育を行います。</p> <p>2年次… 主専実技はレベルの高い課題になり、指揮法・即興演奏・伴奏法などを学び、多角的に専門性を養います。演習科目において音楽芸術の専門的研究を深め、表現・活用するための論理的思考力・コミュニケーション能力の向上を図ります。</p> <p>3年次… 主専実技はレパートリーを増やしていきます。専門領域に関連した知識・技能を身につけるために楽曲研究・電子楽器・邦楽・室内楽など幅広い演習科目を設定しています。</p> <p>4年次… 4年間の学習の集大成ともいえる卒業演奏へ向け、芸術的演奏表現を目指していくと同時に、高度な作品研究や指導能力を高めます。</p> <p>声楽・ピアノ・ヴァイオリン・ヴィオラ・チェロ・フルート・オーボエ・クラリネット・ファゴット・サクソフォン・ホルン・トランペット・トロンボーンを専修楽器として学びます。「主専実技」は「I」から「IV」までを順に履修し、ハイレベルな演奏能力を身につけることができる教育課程を編成します。また、その実技内容に関連した理論と副専実技を学ぶことができ、高度な技術力と芸術性溢れる演奏家を育成します。</p> <p>教育課程全般を通じて、少人数の学科である特徴を活かした教育・指導を行い、学生の理解を高めます。</p> <p>卒業時の卒業演奏をもって、教育課程を通じた学修成果の総括的評価を行います。</p> | <p>本学科は、「立学の精神」とそれに基づく「教育目標」に賛同し、かつ卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識や技能、意欲を備えた女性を求めます。</p> <p>豊かな演奏技術の上に、人に感銘を与える演奏について自ら考え、高い芸術性を希求し、感性・技術・知性を磨き、心に響く演奏能力を身につけようとする情熱・意欲のある者。</p> |
| 1. 知識・理解 | 1-1 | ソルフェージュや和声法をはじめ、多種の音楽理論の専門的知識を有している。 | | |
| | 1-2 | 音楽作品とその歴史や文化など背景に関する幅広い知識を有している。 | | |
| | 1-3 | 音楽に携わる上で必要な語学能力を有している。 | | |
| 2. 技能・表現 | 2-1 | 専門実技において高度な技術と豊かな表現力を有している。 | | |
| | 2-2 | 指導者・教育者として備えておくべき伴奏、合唱・合奏指導、指揮等の知識と技能を習得している。 | | |
| | 2-3 | 合唱・合奏・室内楽などのアンサンブル、また、オペラ、コンチェルトなどの総合的な実技能力を習得している。 | | |
| 3. 思考・判断 | 3-1 | 演奏家に求められる豊かな個性を有している。 | | |
| | 3-2 | 自己および他者の演奏を客観的に聴き、評価する能力を有している。 | | |
| | 3-3 | 指導者としての責任感や倫理観を持ち、人材を育成する意欲を有している。 | | |
| 4. 態度・志向性 | 4-1 | 生涯にわたる研究と自己研鑽を続ける向上心を持ち、音楽活動を通して豊かな社会を作る能力を有している。 | | |
| | 4-2 | さまざまな感性を持った音楽関係者や社会と関わる上で必要なコミュニケーション能力を有している。 | | |
| | 4-3 | “高い知性”、“善美な情操”、“高雅な徳性”を兼ね備え、社会において演奏家・音楽指導者として活動するために必要な知識・技能とそれらを統合し活用できる能力を有している。 | | |